

# CME:7960および7940 IP Phoneのカスタム呼び出し音の追加

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[関連製品](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco CallManager Express にカスタム呼び出し音を追加するときに使用する設定手順を説明します。

## 前提条件

### 要件

この設定を行う前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Cisco CallManager Expressの設定に関する基礎知識。
- Cisco IP Phoneは現在Cisco CallManager Expressに登録されています。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいていますが、すべてのCisco CallManagerリリースとCisco IP Phoneロードに適用できます。

- Cisco IOSソフトウェアリリース12.4(4)TとCisco CallManager Expressリリース3.4(0)が稼働するCisco IOS<sup>®</sup>ルータ
- ファームウェアバージョン7.2(3)が稼働するCisco IP Phone 7960G

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的

な影響について確実に理解しておく必要があります。

## 関連製品

この設定は、次の場合にも使用できます。

- Cisco IP Phone 7940G

## 表記法

ドキュメント表記の詳細については、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 背景説明

Cisco IP Phone 7960Gおよび7940Gには、ハードウェアに実装されている2つのデフォルトの呼び出し音タイプが付属しています。*Chirp1*と*Chirp2*です。Cisco CallManager Expressは、Pulse Code Modulation ( PCM ; パルス符号変調 ) ファイルとしてソフトウェアに実装されたカスタムの呼出音をサポートするために実装されています。Cisco CallManager Expressルータのフラッシュには、サイトで使用可能なリングリストオプションを記述するXMLファイル ( RingList.xmlという名前 ) が必要です。このドキュメントでは、独自のPCMファイルとRingList.xmlファイルを作成して、サイトで使用可能な電話呼び出し音の種類をカスタマイズする方法について説明します。

## 設定

このセクションでは、カスタム電話呼び出し音タイプをCisco CallManager Expressに追加するための情報を提供します。

**注 :** このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、**Command Lookup Tool** ( 登録ユーザ専用 ) を参照してください。一部ツールについては、ゲスト登録のお客様にはアクセスできない場合がありますことをご了承ください。

次のステップを実行します。

1. 各カスタム呼び出し音の PCM ファイルを作成します ( 1 つのファイルで 1 つの呼び出し音 ) 。 PCM ファイルは次の形式のガイドラインに準拠する必要があります。呼び出し音の PCM ファイルは、Cisco IP Phone 上で正しく再生されるためには、次の要件を満たしている必要があります。ロー PCM ( ヘッダーなし ) 8000 サンプル/秒 8 ビット/サンプル uLaw 圧縮最大呼び出し音サイズ 16080 サンプル 最小呼び出し音サイズ 240 サンプル 呼び出し音のサンプルの数は 240 の倍数 呼び出し音はゼロ クロッシングで開始および終了するこれらのファイル形式の要件をサポートする任意の標準的なオーディオ編集パッケージを使用すると、カスタム電話呼び出し音の PCM ファイルを作成できます。
2. ASCIIエディタを使用して、RingList.xmlを編集します。RingList.xmlファイルは、電話呼び出し音タイプのリストを含むXMLオブジェクトを定義します。各呼び出し音タイプには、その呼び出し音タイプに使用されるPCMファイルへのポインタと、その呼び出し音に対するCisco IP Phoneの[呼び出し音タイプ(Ring Type)]メニューに表示されるテキストがされます。CiscoIPPhoneRingList XML オブジェクトでは、この情報を記述するのに次のサンプルタ

グセットを使用します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
<Ring>
<DisplayName/>
<FileName/>
</Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

この定義のリングには2つのフィールドがあります。displayNamefilenameこれらのフィールドは、各電話呼び出し音の種類に必要です。最大50個の呼び出し音をリストできます。

[DisplayName]フィールドは、Cisco IP Phoneの[呼出音タイプ(Ring Type)]メニューに表示される、関連付けられたPCMファイルのカスタム呼出音の名前を定義します。FileNameフィールドは、DisplayNameフィールドに関連付けるカスタム呼び出し音のPCMファイルの名前を指定します。DisplayName フィールドと FileName フィールドは 25 文字を超えることはできません。次に、2つの電話呼び出し音の種類を定義するサンプル RingList.xml ファイルを示します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
<Ring>
<DisplayName>Piano1</DisplayName>
<FileName>Piano1.raw</FileName>
</Ring>
<Ring>
<DisplayName>Sax1</DisplayName>
<FileName>Sax1.raw</FileName>
</Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

3. 新しいPCMファイルとXMLファイルをCisco CallManager ExpressルータのフラッシュにTFTP転送します。
4. **fttp-server**コマンドを設定して、ファイルへのアクセスを許可します。

```
Router_CCME(config)#tftp-server flash:RingList.xml
Router_CCME(config)#tftp-server flash:Piano1.raw
Router_CCME(config)#tftp-server flash:Sax1.raw
```

**注：** **fttp-server**コマンドは大文字と小文字を区別します。flash: のファイル名を確認します。メモリと**fttp-server**コマンドは同じです。**show flash:**コマンドを使用すると、フラッシュメモリ内のすべてのファイルを一覧表示できます。

5. IP Phone をリブートします。IP Phoneをリブートすると、IP Phoneはファイルを取得し、[Settings]の下の[Ring Type Option]リストに呼び出し音の種類を表示します。

```
Router_CCME(config)#telephony-service
Router_CCME(config-telephony)#restart all
Reset 1 phones: at 5 second interval
!--- This can take several minutes per phone. Starting with 7960 phones Router_CCME(config-telephony)#
```

## 確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

## トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

## 関連情報

- [カスタム電話呼び出し音 – Cisco CallManager機能およびサービスガイド](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)